

江戸の坂道散策

第9回 浄瑠璃坂 (新宿区)



山野 勝 Yamano Masaru

坂道研究家

1943年、広島県生まれ。早稲田大学政経学部新聞学科卒業。報知新聞社を経て講談社に入社。「ヤングマガジン」編集長、第3編集局長、取締役、常務取締役を務めた。この十数年、東京の坂道を積極的に歩き、エッセイや講演などで坂道ブームの火付け役に。『タモリのTOKYO坂道美学入門』（講談社）に企画参加。著書に『江戸の坂——東京・歴史散歩ガイド』（朝日新聞社）がある。

新 新宿区の市谷砂土原町一丁目と同二丁目の境を、西北方の私方町に向かつて緩やかに上る坂がある。名前を「浄瑠璃坂」という。東側に日本図書普及、西側にルーテル市ヶ谷センターがある。

浄瑠璃坂の一角は高級住宅地で、閑静な佇まいを見せている。以前は古風な平家造りが多く、広い庭から樹木が坂に枝を伸ばしていたが、最近になってマンションに建て変わってきた。しかし、車の往来も少なく、街全体が落ち着いた雰囲気に含まれている。

浄瑠璃坂の坂名の由来には諸説ある。①昔、この坂上に操り人形浄瑠璃の芝居小屋があった。②昔、坂の近くに天台宗・光円寺という寺があり、その本尊は薬師如来だった。この如来は須弥山にある東方浄瑠璃国の教主であることから浄瑠璃坂の名が生まれたという。③江戸時代、坂の西側に紀伊新宮藩主・水野大炊頭の上屋敷があり、屋敷の長屋が坂に沿って六段になっていた。六段で完結した浄瑠璃にかけて浄瑠璃坂と呼んだという。④浄瑠璃坂という地名は水野家の屋敷ができる前からあつ

茶屋 一眼

浄瑠璃坂が「六段坂」だったというように、段数を元にした坂は他にもある。

最も有名なのは千代田区の「九段坂」だ。台東区池之端四丁目22と16の間には「三段坂」がある。明治二十年代に開設された新坂。

また、品川区大崎二丁目9と西品川三丁目16の間に「百反段」がある。坂下の百反耕地からの上り坂という由来の他に、長坂で「百段」も数えられたためという説もある。

て、実は坂そのものが六段に波うって、六段坂と呼ぶべきを浄瑠璃の六段にかけたとする説もある。

この浄瑠璃坂を有名にしたのは、寛文十二（一六七二）年二月二日に起きた「浄瑠璃坂の仇討ち」である。赤穂浪士の討ち入り（一七〇二年）の三十年前のこと。坂上を左、右、左折していくと、市谷鷹匠町四番地に大日本印刷市谷松柏寮があり、そこが仇討ちの舞台であった。事件の概要を述べた説明板がある。



奥の松柏寮の塙に「仇討ち」の説明板が立っている。